やさしい決算説明

# 令和7年度 水道事業決算報告

水道のお金はどう使われている？ 令和7年度の決算とこれからの水道経営

**水道料金収入が減少**

**純損失（赤字）の発生**

**これからの料金のあり方を検討**

毎日の暮らしに欠かせない水道を、これからも安全・安心に安定して使い続けられるように、令和7年度の決算から「水道のお金の使い道」と「これからの課題」をご説明します。

# 水道事業は皆さまからいただく「水道料金」で運営しています

## 税金を主な財源とする行政サービスとは、お金の管理の仕組みが異なります。




- 水道事業は、原則として皆さまからいただく水道料金で事業運営に必要な費用をまかなう仕組みです。こうした仕組みを『**独立採算制**』といいます。
- 水道事業のお金の動きは、大きく2つに分けて管理しています。

● 毎日の運営に関するお金【**収益的収支**】： 水道水を届けるための費用や、施設の維持管理など

● 施設の整備・更新に関するお金【**資本的収支**】： 水道管や施設の新設・更新など

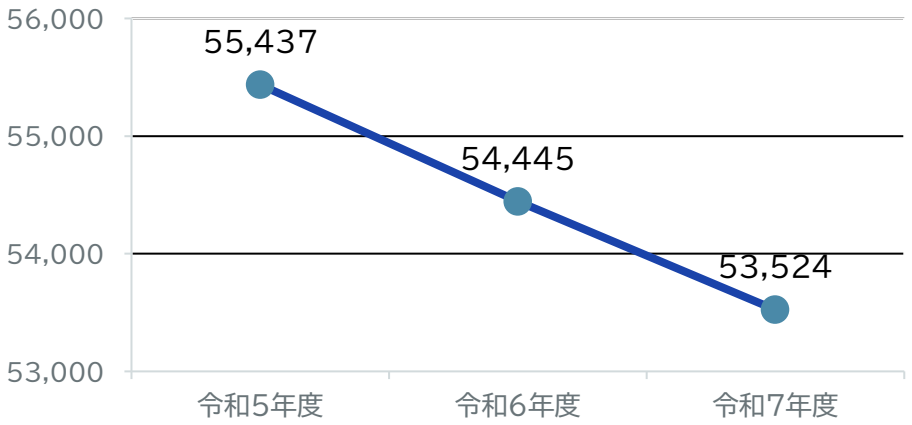
# 令和7年度の水道を「量」から見る

## 給水人口と水道料金の対象となる水の使用量は、いずれも減少しています。

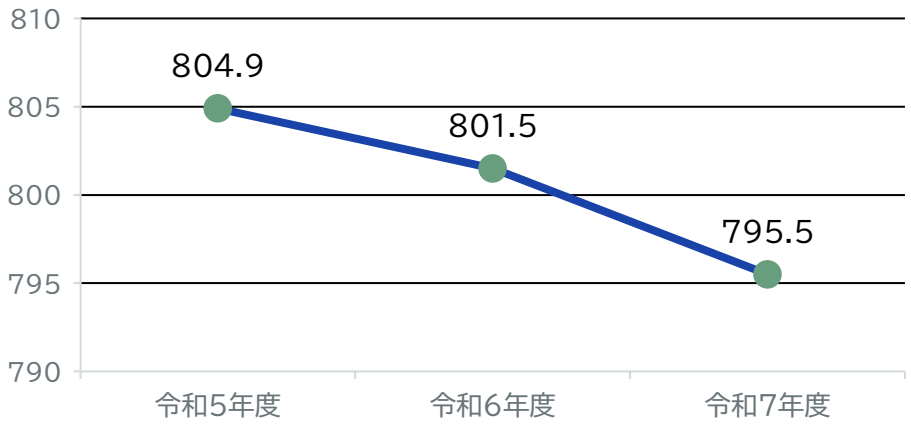
◆ 令和6年度と比べて令和7年度は水道を利用する人が**921人減り**、水道料金の対象となる水の量も**約6万㎥減り**ました。

※ 6万㎥は6000万リットルに相当します。身近な量に換算する場合は、例えば浴槽1杯を200リットルと仮定すると約30万杯分です。
これはあくまで量のイメージであり、実際の家庭の使用量を表すものではありません。

**水道を利用している人の数**
**【給水人口】(人)**

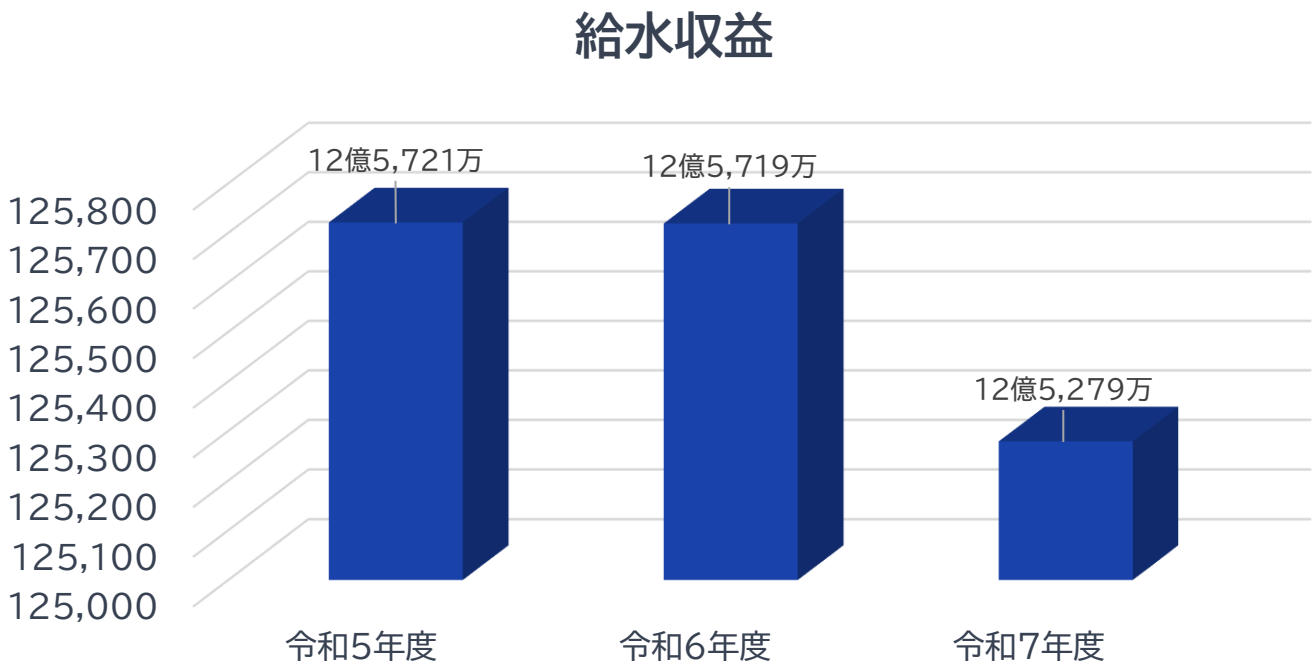



**水道料金の対象となる水の量**
**【有収水量】(万㎥)**



# 水道料金収入が減少した要因は水の使用量の減少です

◆ 水1㎥あたりの収入は少し増えましたが、水道を利用する人や水の使用量が減ったため、水道料金収入全体は令和6年度に比べ**約440万円減少**しました。
◆ 水1㎥あたりの収入（**供給単価**）は、156.85円から**157.48円**になりました。



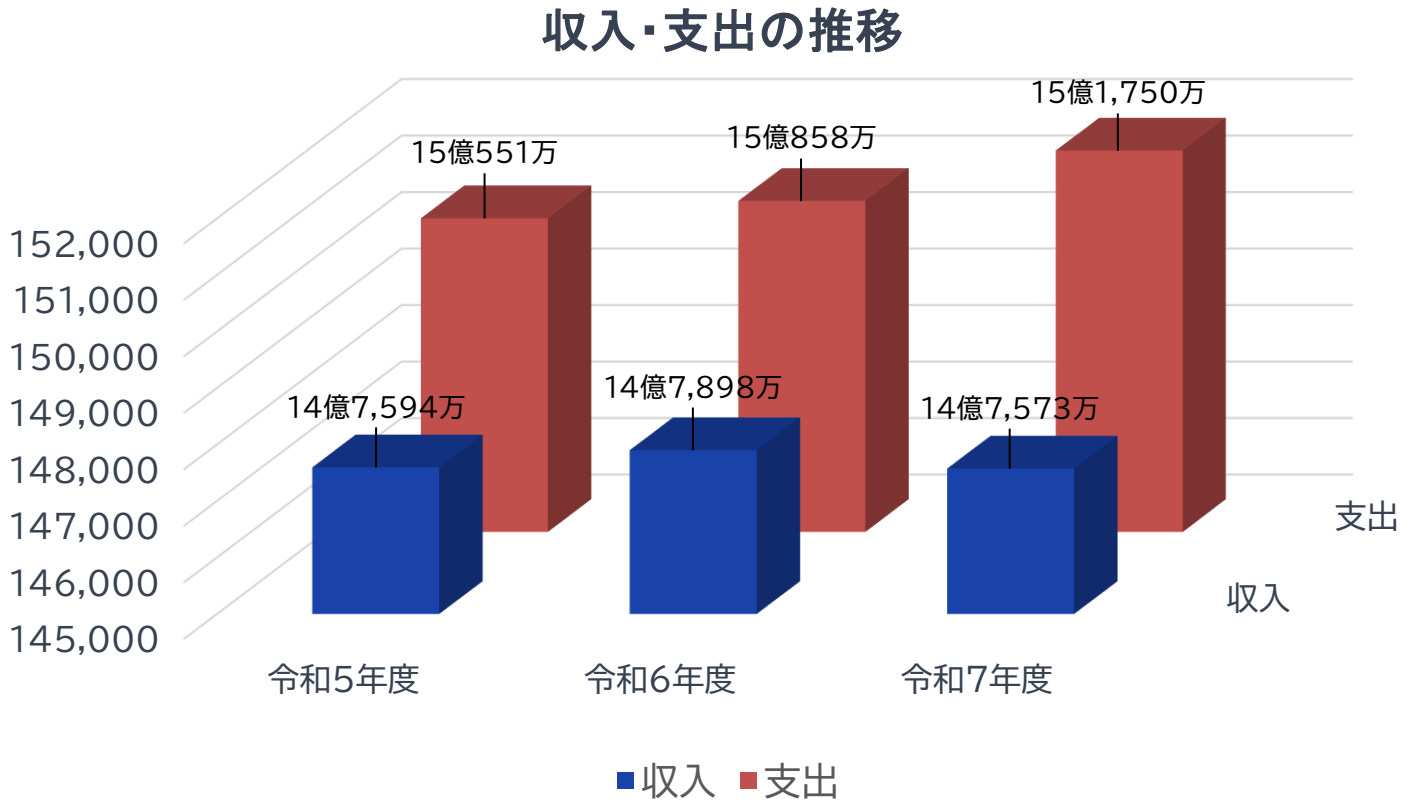

水1㎥あたりの収入が増えても、使われる水の量がそれ以上に減ると、水道料金収入全体は少なくなります。

# 【収益的収支】を見る　①

## 事業費用が収益を上回り純損失（赤字）が生じました

◆ 令和7年度は、水道事業の収入よりも費用が多くなり、最終的に約4,177万円の赤字となりました。

◆ このように、会計上の費用が収入を上回った状態を『純損失』といいます。

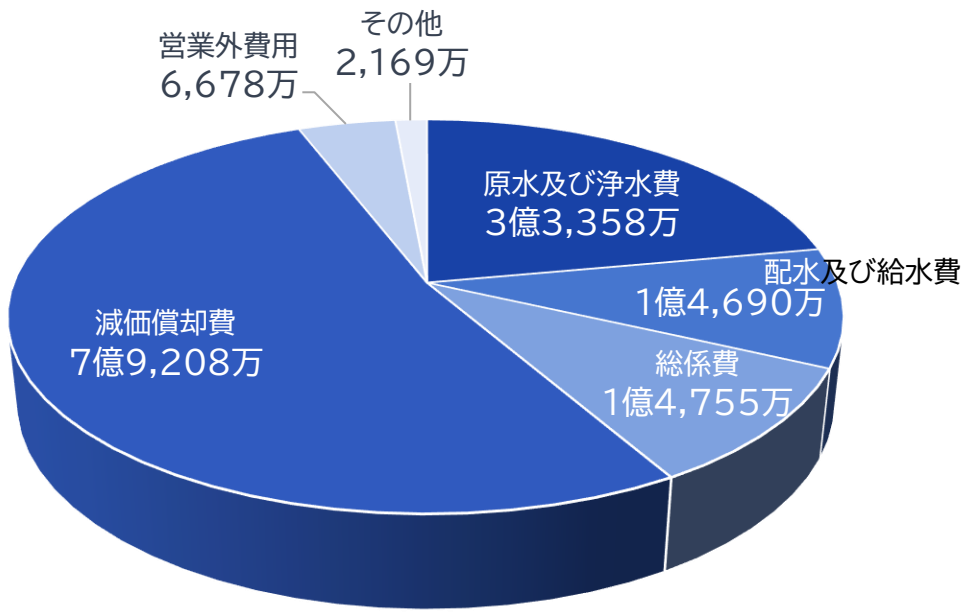


# 【収益的収支】を見る　②

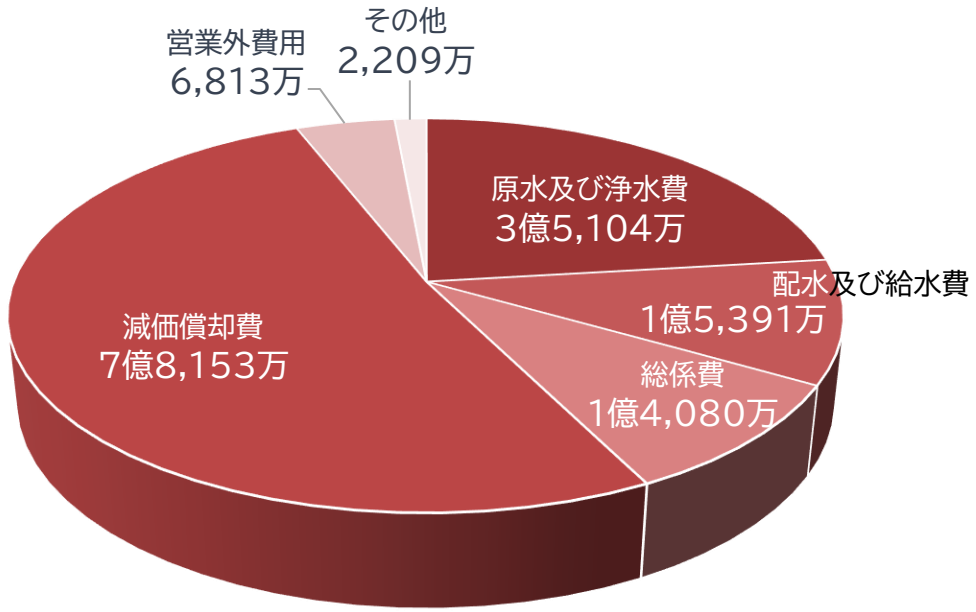
## 水道事業の費用は、何に使われている？

◆ 令和6年度と令和7年度の費用を比べると、水道管や施設の整備にかかった費用を毎年に分けて計上する『**減価償却費**』が、大きな割合を占めています。

令和6年度（15億858万円）




令和7年度（15億1,750万円）




※『その他』には、工事の受託にかかる費用や、古くなった設備を取り除く際の費用など、ほかの項目に含まれない費用をまとめています。

# 赤字の背景は「水の使用量が減る」一方で必要な費用がかかること

◆ 水道を使う量が減っても、水をつくり、各家庭や事業所まで届けるためには、水道管や施設の維持管理が引き続き必要です。使用量が減った分だけ費用を減らせるわけではありません。



**水道料金収入**

給水人口・使用水量の減少で料金収入が減少



**原水・浄水費**

取り入れた水を安全に飲める水にするための費用 ： 約3億5,100万円



**配水・給水費**

水を水道管で各家庭などに届けるための費用：約1億5,400万円



**減価償却費**

水道管や施設の整備にかかった費用を使用する期間に分けて毎年の費用として計上 ： 約7億8,200万円

家庭や事業所で使う水の量が減ると、水道料金収入も減ります。一方で、いつでも安全・安心な水を安定して使えるよう、水道管や施設の維持管理は続けなければなりません。これが、現在の水道事業が抱える経営上の課題です。

# 「赤字」と「施設更新の資金」は、別々に考える必要があります

◆ 水道事業のお金には、毎日の運営に使うものと、水道管や施設を整備・更新するためのものがあります。この2つは会計上、分けて管理しています。

**① 毎日の水道事業 ＝ 収益的収支**

**水道料金**

➡ 維持管理・人件費・減価償却費など

**② 将来の施設整備 ＝ 資本的収支**

**施設の整備などに使うお金**

➡ 借入金や補助金など

令和7年度は、施設の整備・更新に関する収入だけでは、支出に対して約8億754万円不足しました。この不足分は、内部に留保している資金などで補っています。

施設の整備などに必要な収入だけでは足りない分は、これまでの事業運営で蓄えてきた資金などを使って補っています。

# これからも水道を続けるために、料金のあり方を考えます

◆ 現時点では、水道料金をいつ、どの程度改定するかは決まっていません。まずは水道事業の現状や今後の見通しを市民の皆さまにお伝えし、ご理解をいただきながら、これからの料金のあり方を検討していきます。




- 水道料金のあり方を考える際には、現在の赤字だけでなく、今後の水の使用量や水道管・施設の更新に必要な費用なども見通す必要があります。将来にわたって安全・安心な水を安定して届けられるよう、必要な経費や経営改善の取り組みを踏まえて検討していきます。
- 決算や将来の見通しをわかりやすくお伝えするとともに、市民の皆さまのご意見を伺う機会を設けながら、今後の方針を段階的に検討していきます。

# まとめ：令和7年度決算から見えること

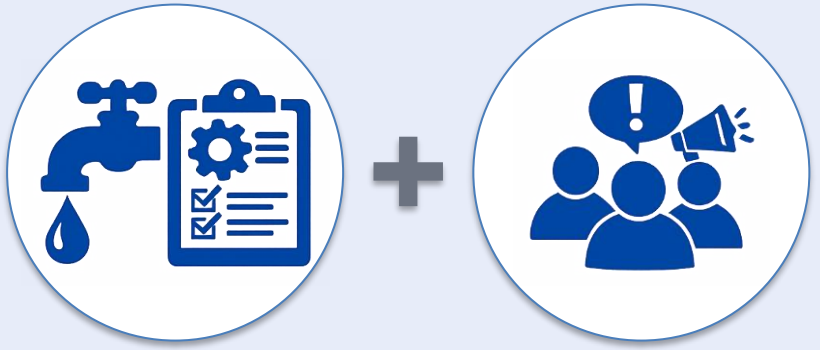
**水の使用量**
- 水道を利用する人の数と、水道料金の対象となる水の量は、減少しています。

**収　益**
- 水道料金収入は、令和6年度より約440万円減りました。

**支　出**
- 水の使用量が減って収入が減る一方、水道管や施設を維持するための費用は必要なため、支出が収入を上回りました。

**決　算**
- **純損失（赤字）は約4,177万円**

## これから



**経営改善**　　**市民周知**

経営改善に取り組みながら、市民の皆さまに現状をお伝えし、今後の水道料金のあり方を検討します。